

【第1部会】第三次佐久市総合計画策定シートに係る意見対応表

章	施策名	番号	意見	回答	対応
1	学校教育	1	佐久市ならではの内容が薄いのではないかと。全国でも通用するような内容に見受けられる。「佐久市の〇〇という強みから～」のような、らしさが欲しい。	探究的な学びを推進するために、これまで、佐久市が継続してきた「コスモスプラン」の精神を深化させていくことから、追記します。	(1)小中学校の教育の充実－1に反映 「こどもたちの一人ひとりの興味・関心を育み、多様な個性を大切にしながら、「コスモスプラン」を継承するとともに、探究的な学びを通して問題解決能力の育成を推進します。」
		2	KPIのソフトウェアについては、手段なのか目的なのか何を旨したいのかが見えない。	教育の充実を図るために導入しており、ソフトウェアの活用が促進されることは、授業内容の充実や、教員の指導力向上などの成果にもつながるため、本KPIを設定しています。	
		3	「学校が楽しい」のKPIはよいが、不登校など、学校に行きづらい児童生徒が漏れてしまうのではないかと。そのこともたちのKPIもあってよいのではないかと。	チャレンジ教室通室生に対し、チャレンジ教室を安心できる場所と感じている小中学生の割合についてKPIを設定し、アンケート等の実施を検討します。	4 KPIに追加 「チャレンジ教室を安心できる場所と感じている小中学生の割合」 基準値：未実施 R13目標値：70%
		4	「一人ひとりの個性」という言葉では、特別支援についての記載まで認識されないのでは？	特別支援学級に通うこどもたちも、それぞれの個性として意味を含めています。教育振興基本計画において詳細が記載されます。	
		5	探究のように追及する能力を育成することはよいが、そもそも、目的が薄まってしまっていないか。定着や身に着けるという内容が弱いのではないかと感じる。	関連計画である、教育振興基本計画において、より詳細に記載されます。	
	高校教育・高等教育	1	佐久大学の卒業生の市内企業への就職者数が指標になっているが、これは教育分野の指標なのか、産業分野の指標なのか整理が必要ではないか。教育分野としてどこまで扱うのかが分かりにくい。	本KPIは市内大学等との交流・連携による成果として設定しているもので、教育分野として扱います。	
		2	市に将来帰ってきてもらうための市の奨学金制度などもあるが、一定年数経過後に出ていく子もいる。魅力的な職場づくりや環境は産業分野だと思うが、帰ってきてほしいと思わせるのは教育だと思うため、その連携はどうなっているのか。	取組内容にある通り、小中学校、高等学校、大学との交流・連携や地域との関わりが必要な活動や体験学習などを支援することで、シビックプライドの醸成にもつながると考えます。	
	青少年健全育成	1	第3の居場所について非常に重要な内容である。「第3の居場所」という言葉が固いイメージがあるので、誰もが生きやすいようなネーミングが重要であると感じる。	「第3の居場所」は、学校でも家庭でもない子どもが安心して過ごせる居場所を指す言葉として、近年では、国を始め一般的に使用され認知が広がってきていることから計画で使用しています。実際に佐久市がそのような場所を整えた際の呼称(ネーミング)は、市民の皆さんがより分かりやすい名称を用いることになると考えています。	
		2	公民館の活用にしても、小学生までは行事があれば来るが、中学生以上はなかなか来ない。部活の兼ね合いもあるのだから、子ども目線で、子供の意見を参考にした活用も必要なのでは。	策定シートの(3)1「各地域の公民館において、こどもたちが学習室の利用のみにとどまらず、多世代がともに過ごす場を通じて、安心な居場所を確保し、地域全体の活性化と連帯感の醸成に努めます。」とあり、この取組を進めるに際し、御意見の視点も参考に進めてまいります。 また、中学校部活動の地域展開に際し、公民館もその受け皿の一つとなっていくことが見込まれますので、これらの活動を通じて中学生以上の生徒と社会教育との連携を深めてまいります。	
	文化・芸術				
	生涯学習				
	スポーツ	1	中学校部活動の地域移行について、部活動をやめて、クラブチームやスポーツ教室に切り替えている子供が増えてきているのではないかと。	地域移行することとは、こどもや家庭によって様々な選択が考えられますが、部活動を選択することも達が安心して取り組めるよう引き続き、体制の構築を進めます。	
		2	実際に中学生自身が、地域移行についてよく理解できていないのではないかと。	令和6年度において、部活動の地域移行について対象となる学年の児童生徒・保護者にアンケート調査を行ったり、各小学校に出向き先生および保護者に対し説明を実施しています。 ※児童生徒に直接の説明は行っていない。	

6	人権尊重社会	1	犯罪被害者への支援は分かるが、加害者側の支援や更生をどうするのかという点はどうか。	第3章の地域福祉施策において、「再犯防止の推進」として、犯罪や非行から立ち直ろうとする人への理解促進と更正支援に向けた体制作りについてまとめています。	
		2	日本人同士の差別だけでなく、外国人も増えてくる中で、そこに対する差別も検討が必要ではないか。	策定シート(1)1であらゆる差別を解消するとしています。また、関連計画の部落差別撤廃と人権擁護に関する計画において詳細にまとめています。	
	男女共同参画社会	1	女性が活躍してほしいという、「女性が」という表現が強すぎて、女性が頑張れば良いという風に見えてしまう。逆に男性自慢の内容が無い。「男性が」、職場や家庭や役職など、頑張らなければならない。	ご意見のとおり、男女共同参画社会については女性だけでなく、男性も理解を深め互いに尊重し合う必要があります。(1)1や(2)3などに記載があるとおり、男女共同参画に関する意識改革や男女間わずワークライフバランスの重要性を理解した社会の実現に向けた取り組みをまとめており、その環境の中で、自己実現を図り活躍しようとする意欲ある女性を支援するため(2)5としてまとめています。	(2)男女がともに活躍できる環境づくり-5 を修正 「意欲ある女性が自己実現を図れるよう、様々な分野で個性と能力を発揮できる地域社会の実現を推進します。」
		2	主人の理解がある、各家庭の理解がある方のみが審議員などでも活躍できるが、そうでない人は、難しい状況がある。理解が及んでいない家庭への周知が最も重要ではないか。	策定シート(1)1のとおり、家庭・地域・職場など、あらゆる場面において、男女共同参画に関する意識改革を推進します。	
		3	こども同士の会話の中で、「お父さん仕事何しているの？」に対し「お父さんは家にいて、お母さんが仕事をしているよ。」と言われた時の、「え、お父さん働いていないの。」という場面があった。潜在的に子どもの中にその感覚が残ってしまっているのが課題。	策定シート(1)2のとおり、幼稚園・保育園・学校などと連携し、幼児期から男女共同参画の視点に立った教育を推進します。	
		4	社会へ向けた女性の支援はあるが、地域社会に向けた呼びかけは少ない。地域活動での女性参加はいまだに少ない状況。	策定シート(2)1のとおり、地域活動などにおいて、方針決定過程への女性の参画を促進します。	
	防災	1	防災行政無線が聞こえない、特に雨の時は尚更聞こえないため、放送だけではなく他の手段を検討して欲しい。また、要配慮者と言われる耳が聞こえない人に対してどのように情報を伝えていくのかということが大事ではないか。	策定シート(1)4のとおり、情報の伝達手段を多重化することで、全市民へ迅速・的確な避難情報を確実に届ける仕組みづくりを推進してまいります。ご意見の内容につきましても、担当課に共有させていただきました。	
		2	さくステなど情報発信手段の普及率などをKPIとして設定できないか。	さくステアプリダウンロード数やLINEの登録者数などは把握できますが、そのうちの何人が佐久市民なのかを正確に把握できないことから、普及率のKPI設定は困難であると判断しました。	
		3	防災において自助、共助がとても大事になってくることから、自助、共助を作るための市からの支援の仕方、助言の仕方を考えてもらいたい。	策定シート(3)1のとおり、市民一人ひとりの防災意識を高め、自らの判断で命を守る行動ができる体制の再構築が不可欠であると考えていることから、防災訓練や出前講座の充実などにより、市民の防災意識の高揚を図ってまいります。	
		4	地域により災害の危険度や種類が違うので、そういったものを把握したうえで、防災、減災について考えていくことが必要ではないか。	策定シート(2)6のとおり、地域の災害リスクや要支援者の対応を反映した実践的な防災訓練を推進してまいります。	
		5	区や地域で防災体制を考えていくことが大事であり、各地域に1人か2人防災士がいると良いのではないか。	策定シート(1)2のとおり、防災士の配置促進により、地域主体の防災体制の確立を図ってまいります。	
	消防・救急	1	女性消防団員の大半は音楽隊であり、活動内容が別物であるが、一緒に見てしまうのはどうか。	女性消防団員が所属する、防火広報、学生、音楽隊、各分団の所属ではそれぞれ役割や活動内容が違いますが、消防団の役割は現場で活動するだけではなく、防災意識を高めるための広報活動なども重要な役割です。各所属における活動を通じて、地域全体の消防体制の充実につながると考えていることから、KPIの設定におきましても各所属の女性消防団員の合計人数で設定をしたいと思います。策定シート(2)1に注釈を入れるよう修正を行います。	(2)地域消防体制の充実-1を修正 「地域貢献、防災などに関する知識・スキルの習得、様々な職種・世代との交流といった消防団の魅力を発信するとともに、大学などとの連携による学生団員や女性消防団員の入団を促進します。 ※女性消防団員 防火広報・学生・音楽隊・各分団に所属している女性団員。」

		2	策定シート(2)1、「大学など」と書いてあるが、大学生だけではなく、中学生・高校生にも消防団に関心を持ってもらうといったことが必要ではないか。消防署に学校で来てもらって体験してもらうということも必要かと思う。	小学校向けの社会科見学、夏休みの宿泊体験や、中学校の職場体験、高校生のインターシップの実施により消防活動を身近に感じてもらう取組を現在実施していることから、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。	
	交通安全	1	要望の対応について、市は早く対応してくれるが、県道の方は遅いと感じる。市道だけではなく県道も含め、市全体の交通安全ということで安全対策が進むよう、市から働きかけてほしい。	策定シート(2)2のとおり、県・関係機関への働きかけを行いながら、市内の安全な道路環境の確保を図ってまいります。	
	防犯				
	消費生活				
7	市民協働・参加				
	地域コミュニティ	1	「区の活動を支援」とあるが、具体的にどう支援するのか不明瞭。区役員の負担軽減など、現場が振り回されない具体的な支援体制を明示してほしい。	総合計画としては「区の活動を支援」という表記になりますが、区における業務効率化の優良事例の共有や、既存の活動費支援・公会場の改修補助金といった財政的支援を行っております。さらに、令和8年度からの「区活動等の在り方検討事業」に沿って、各区の課題を把握した上で、市の実施計画や予算に基づき具体的な支援を実施してまいります。	
	行財政経営	1	KPIにオンライン手続100%を目指すところがあるが、窓口での紙を完全に無くすということか。	「100%」という数字は、市民向けの手続に限らない市の内部事務等も全て含めた上での目標値です。「紙を禁止する」ということではなく、あくまで手段の一つとしてオンラインという選択肢を増やす(環境を整備する)というイメージで進めております。	
	高度情報通信ネットワーク	1	現在の「書かない窓口」等のデジタル化運用に対し、現場では職員がデジタル入力し直すような二度手間が発生しているのではないかと。タブレットの操作性も悪く、市民にとってはかえって時間がかかっている実態がある。真に業務改善につながるのか、市民の利便性が向上するのか、システムの使い勝手を抜本的に見直すべき。	策定シート(2)1に記載のとおり、手続のオンライン化の一層の推進などによる更なる利便性向上に向けて、一人ひとりに寄り添った快適な行政手続環境の整備と効率的な行政運営を一体的に進めてまいります。	
	関係人口・定住人口・交流	1	エストニア等との姉妹都市交流について、実態(移住や経済効果など)が伴っていないのではないかと。形だけの式典等ではなく、子どもたちのスポーツや文化交流などをメインに据えるべきではないか。目的をはっきりさせるべき。	ご指摘のとおり、現状は直接的な移住等に結びついていない部分もあります。策定シート(2)1に記載のとおり、形式的な交流にとどまらず、市民同士の交流促進による関係人口の創出など、新たな価値の創出に努めてまいります。	
	広域連携				